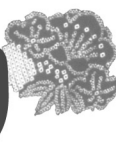




手技の美・絞り



[展示趣旨]

和服などでおなじみの絞り染めは、模様を表す技法としてもっとも素朴で原始的な方法であり、その歴史は古く世界中のいろいろな地域で見られます。

絞り染めは布地を一粒一粒糸で括ったり、一針ずつ縫い締めたりした部分に染料が入らないようにして模様を染め出す技法で、根気と熟練を要するものです。



日本の絞りには古くは奈良時代の正倉院御物などにも見られますが、室町後期には描き絵とともに施される辻が花染が見られ、江戸時代になると子鹿の背のような模様染め上げる「鹿の子絞り」が全盛となり、その技法は時代と共に多様化しながら発達してきました。

今回の展示では「絞り」の魅力を多面的にとらえ、日本の伝統的な絞りから、現代の日常生活に生かされている草木染めによる絞りなども展示しますので、その特徴と多様性に注目しながらご覧ください。

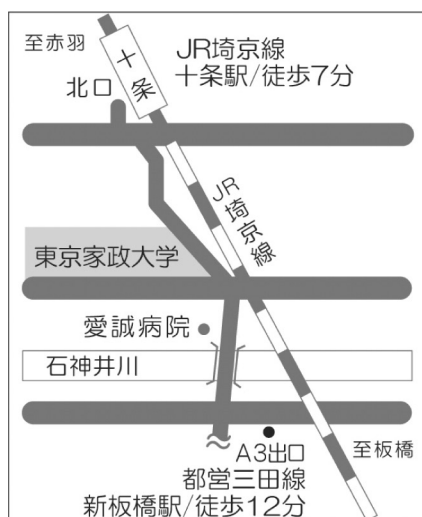
絞り染めを楽しみませんか

10月23日(木)、11月5日(水)・8日(土)

各日とも 13:30~15:30

当日受付 先着20名(参加費・材料費は無料です)

*エプロンをご持参のうえ、汚れてもよい服装でご参加ください。



*十条駅北口を降りたら
左手に進んでください。

開催場所：東京家政大学博物館

(東京家政大学内・百周年記念館5階 展示室)

東京都板橋区加賀1-18-1

TEL 03-3961-2918

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/>

開催期間：平成20年10月16日(木)~11月13日(木)

休館日：日曜・祝日(10/26は開館)

観覧料：無料

開催時間：9時30分~17時 金曜日は18時まで